

地域の経済2007

— 自立を目指す地域経済 —

要 約

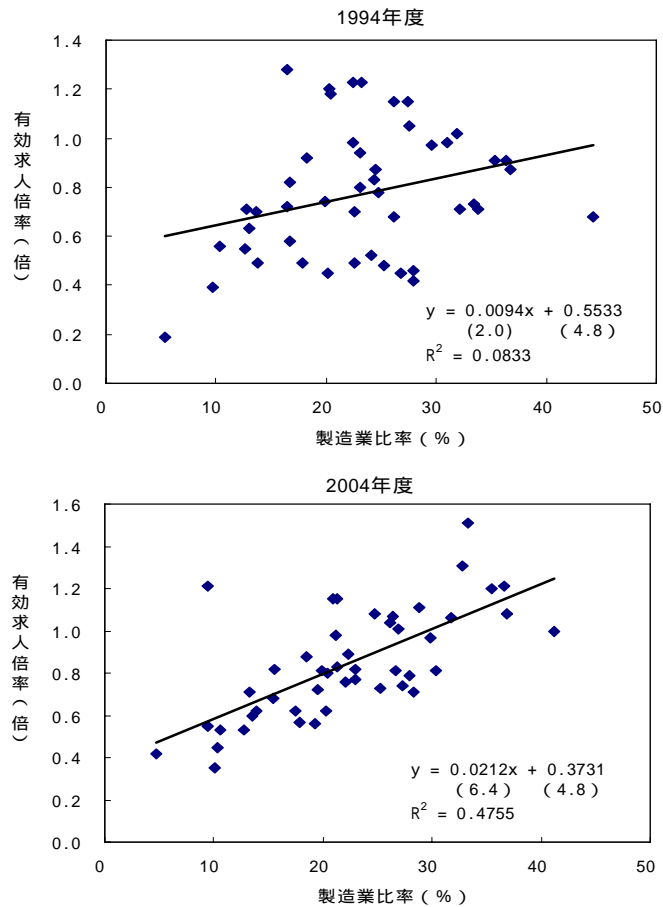
内閣府 政策統括官室(経済財政分析担当)

第1章 - 景気回復と地域経済

第1節 好調な企業部門

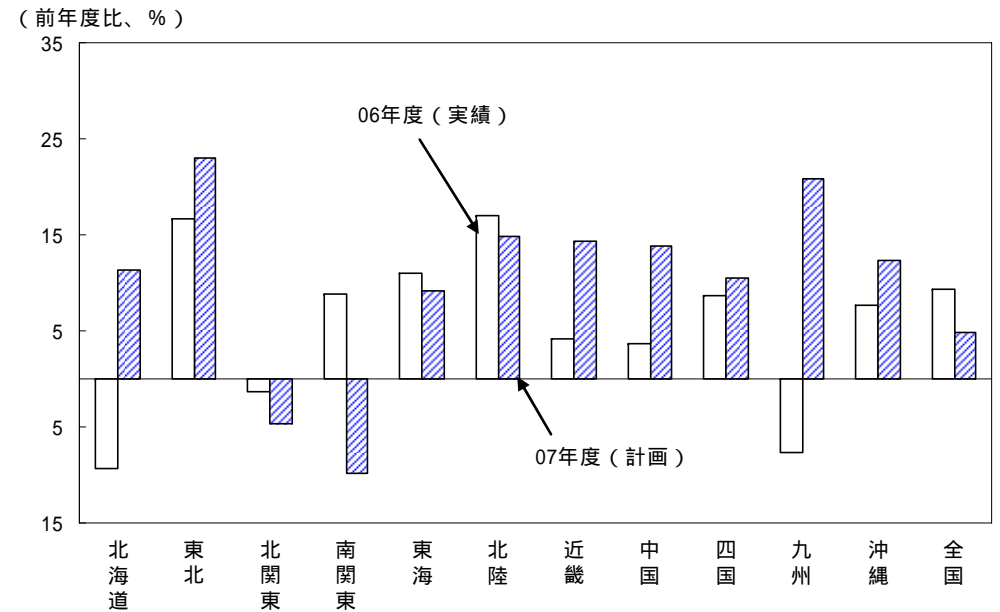
- ・今回の景気回復は製造業がけん引 製造業の比率の高い地域ほど、有効求人倍率が高い
- ・中でも、自動車と電子部品・デバイス工業が2強、鉄鋼や造船といった重厚長大産業も復活
- ・工場の国内回帰も緩やかに進み、設備投資は各地域ともおおむね堅調な動きが続く

第1 - 1 - 1図 製造業と有効求人倍率



(備考) 1. 内閣府「県民経済計算」、厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。
2. 点は都道府県。

第1 - 1 - 16図 地域別の設備投資（短観全産業）



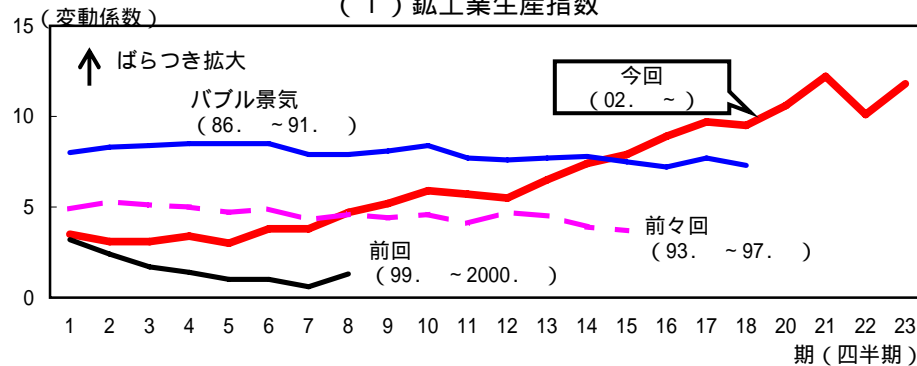
(備考) 1. 日本銀行各支店「短観」により作成。
2. 北関東は前橋支店管内、南関東は神奈川県。

第2節 ばらつきのある景気回復

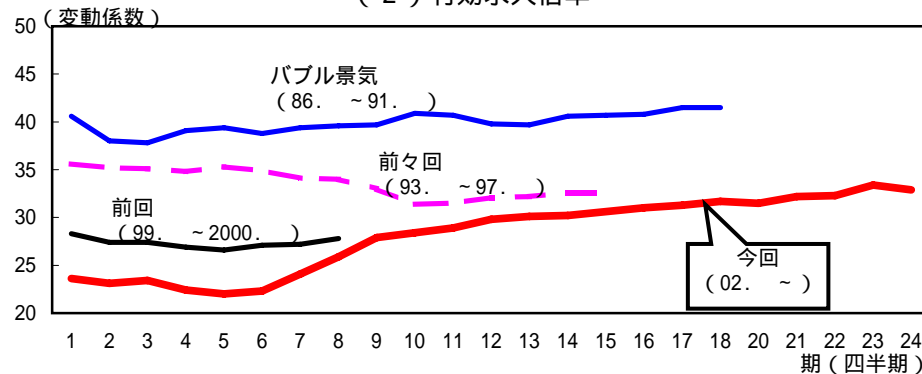
- ・鉱工業生産指数と有効求人倍率の地域間のばらつき(変動係数)は、期を追うごとに拡大
- ・今回の回復局面では、地域別の定期給与が伸びているのは3地域、前回の回復局面では全地域、最も経済が好調と言われる愛知県ですら、1人当たりの定期給与は低下に寄与

第1-2-4図 過去の回復局面との比較

(1) 鉱工業生産指数



(2) 有効求人倍率



(備考) 1. 各経済産業局「地域別鉱工業生産指数」、厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。

2. 変動係数(t期) = 地域間の標準偏差(t期) / 地域間の平均値(t期) × 100

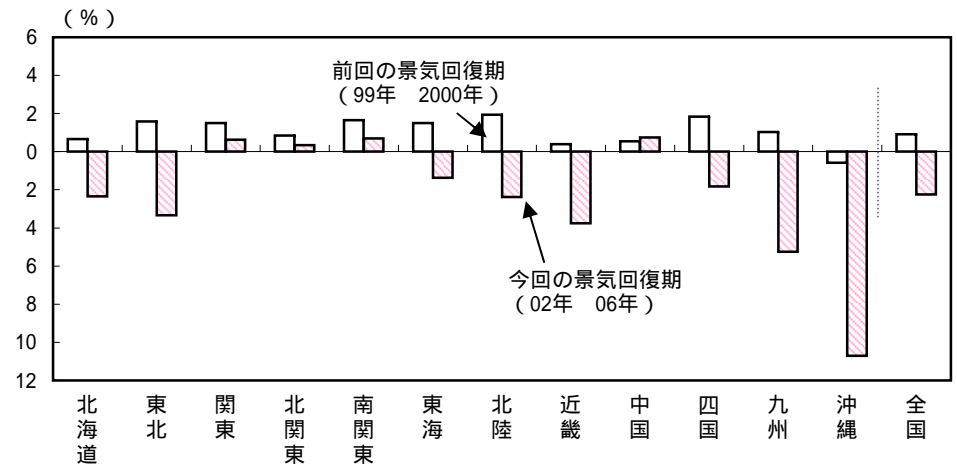
3. 地域区分は、以下のとおり。

鉱工業生産指数：北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州

有効求人倍率：北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄

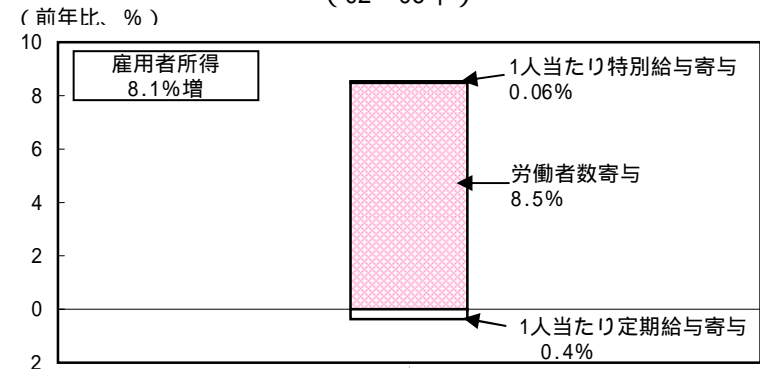
4. 地域別有効求人倍率の季節調整値は内閣府で試算。

第1-2-7図 地域別定期給与の伸び率



第1-2-8図 愛知県の雇用者所得

(02~06年)



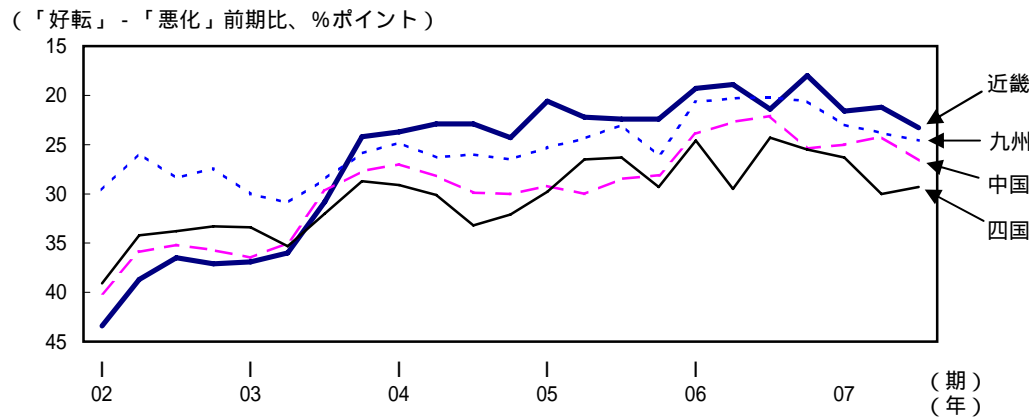
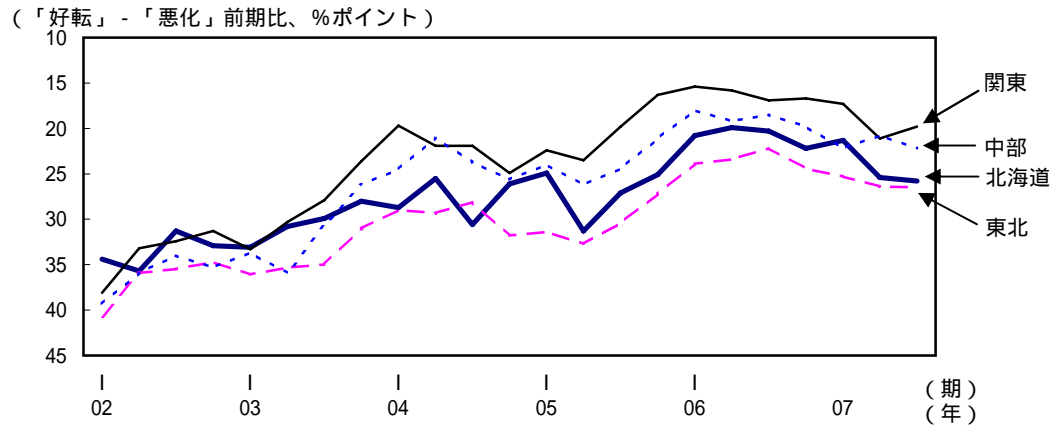
(備考) 1. 厚生労働省「毎月勤労統計地方調査」、愛知県公表資料より作成。従業員5人以上。

2. 雇用者所得は、1人当たり現金給与総額に常用労働者数を掛け合わせた試算値。

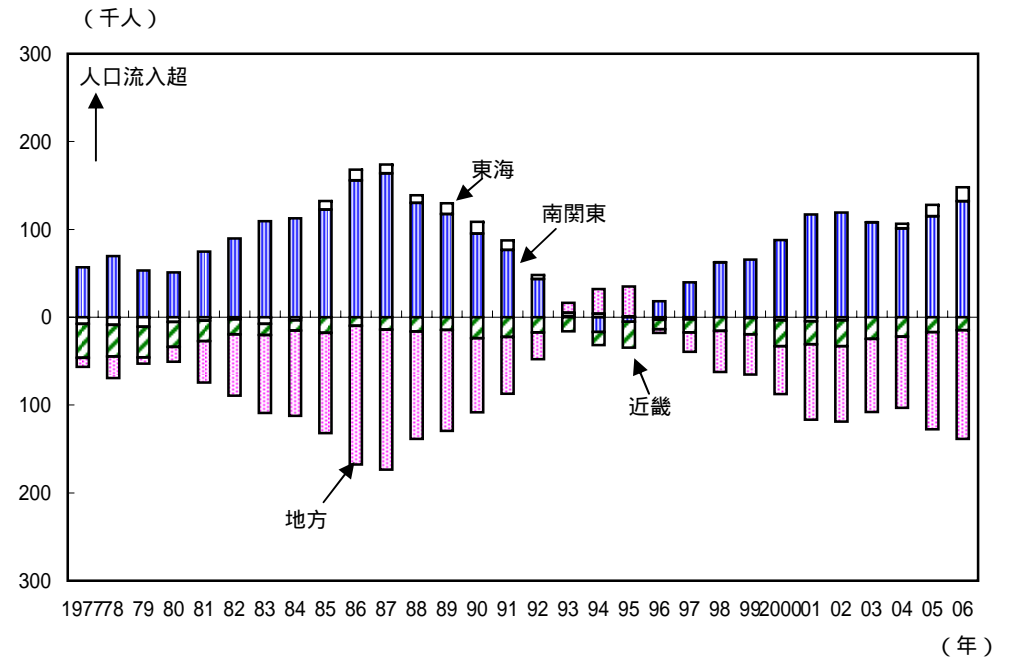
回復力の弱い中小企業の景況感

- ・中小企業の景況感は、どの地域ともに「ゼロ」を下回った状態でここ1～2年はほぼ横ばい、足下でやや弱い動き
- ・業種別には、製造業や卸売業は各地域ともに大きく改善、サービス業や小売業は苦戦
- ・中小企業の抱えている経営上の問題点は、業種によって差異。バブル期の景気の山、90年代後半の景気の山、今回の直近期において、卸売業は常に「需要の停滞」、小売業は常に「大中型店の進出による競争激化」が第1の問題点
- ・07年7-9月期になって、製造業の第1の問題点に「原材料価格の上昇」が浮上
- ・労働移動による人口の流出入
- ・90年代中ごろを底として、南関東への人口流入超が続く中、04年からは東海も人口流入超に
- ・雇用の改善の動きが鈍い8道県では、南関東や東海への転出の増加が目立つ
- ・最近では、製造業比率の高いところほど人口流入超という関係がみられる

第1 - 2 - 14図 中小企業の地域別業況判断D Iの推移



第1 - 2 - 17図 3大都市圏と地方圏の人口流出入

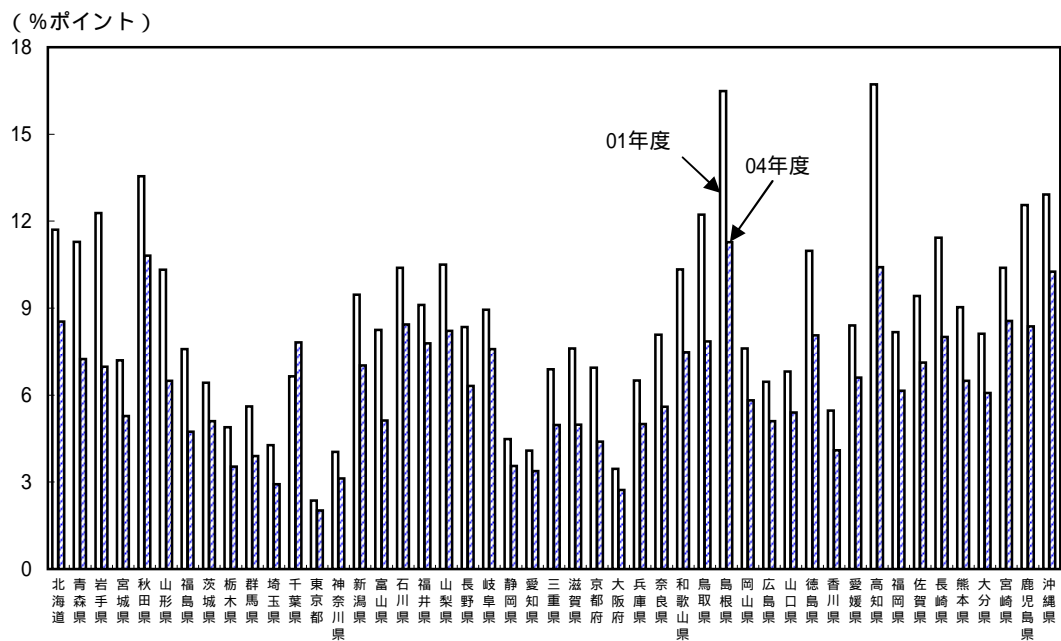


(備考) 左図：独立行政法人中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」により作成。全産業。
右図：総務省「住民基本台帳人口移動報告」により作成。

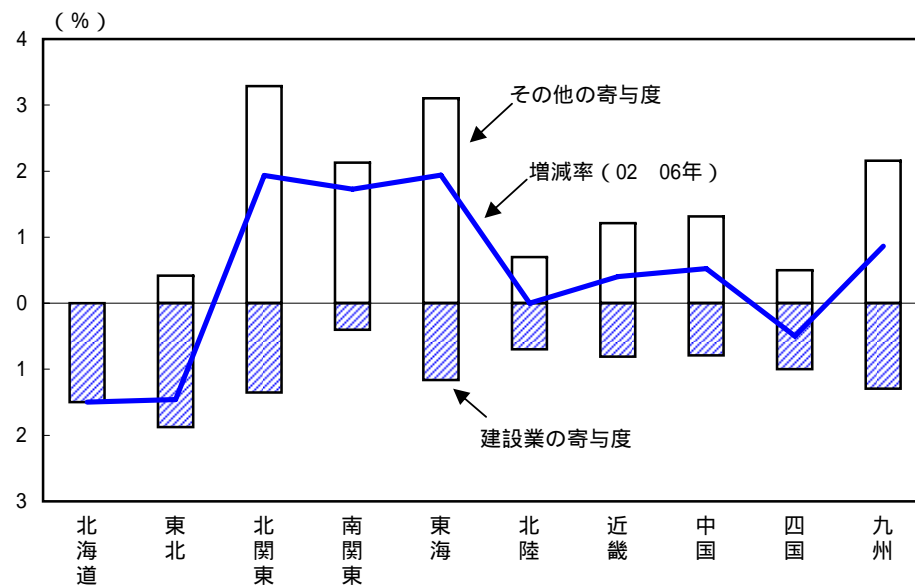
公的投資依存からの脱却は進んでいるか

- ・公的投資を抑制する方針が続く中で、公的投資依存度は低下
- ・建設業の就業者数は全地域で減少しているが、その他の産業の就業者数の増加がカバーできず、全体の就業者数が減少する地域も

第1-2-21図 公的投資依存度



第1-2-26図 就業者数の変化(02-06年)



(備考) 1. 内閣府「県民経済計算」により作成。

2. 公的投資依存度 = 公的資本形成 / 県内総支出 × 100

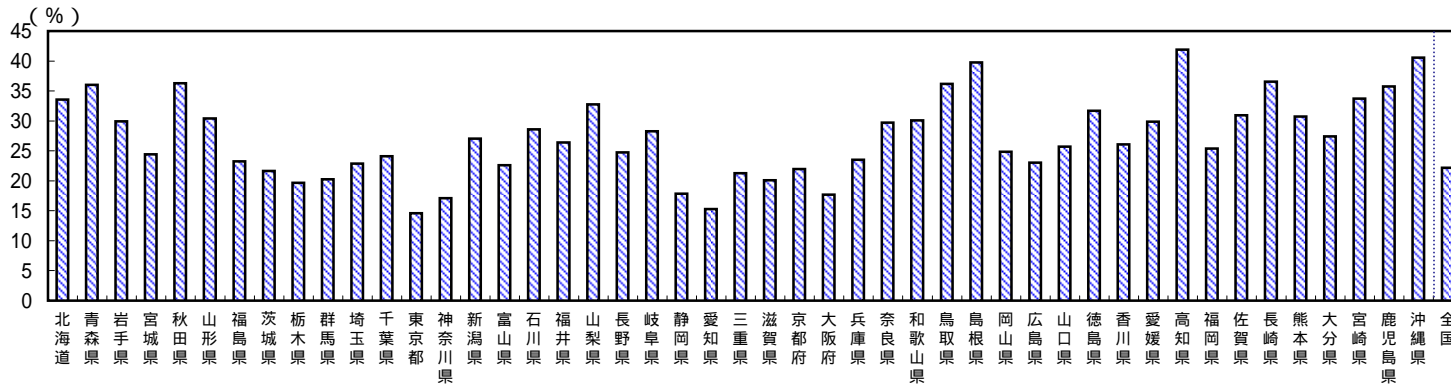
(備考) 総務省「労働力調査」により作成。

第2章 - 地域経済自立のための必要条件

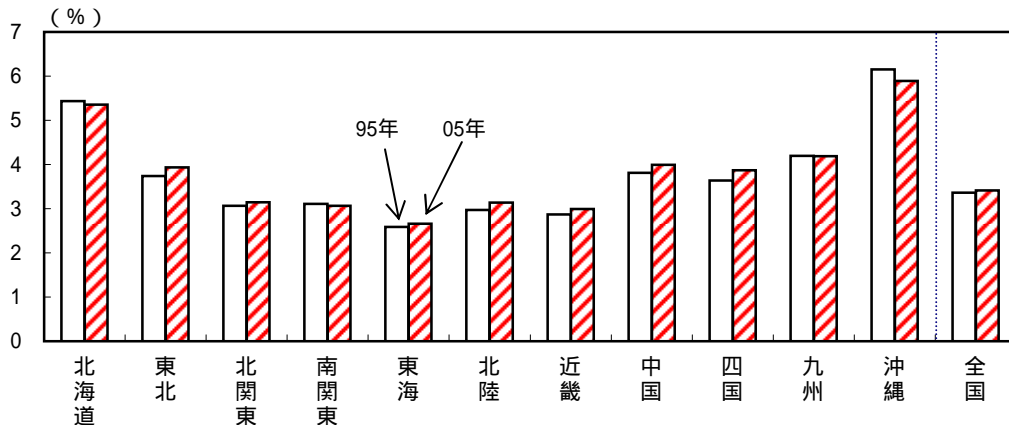
第1節 地域経済と地域財政の自立の現状

- ・公的部門に対する依存度(政府最終消費支出と公的固定資本形成の県民総支出に対する割合、04年度)は高知県、沖縄県で40%超え、10年前と比較しても傾向は変わらず
- ・地域の雇用は公的部門に依存している面も
- ・地方の歳入は地方税に加え、地方交付税、国庫支出金など中央政府からの財政移転にも依存
- ・公的依存度と財政力指数には負の相関

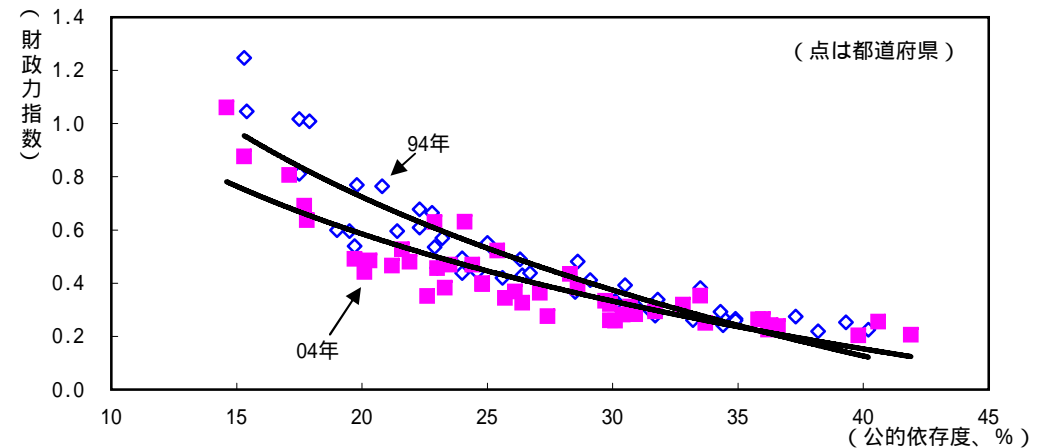
第2 - 1 - 1 図 公的依存度 (04年度)



第2 - 1 - 3 図 公務従事比率



第2 - 1 - 5 図 公的依存度と財政力指数

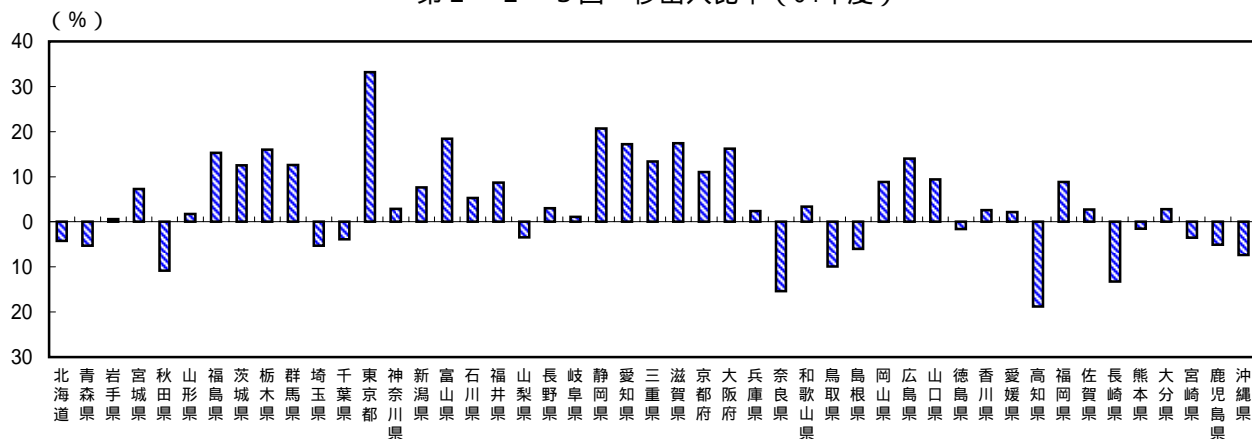


(備考) 内閣府「県民経済計算」、総務省「国勢調査」、「地方財政白書」により作成。

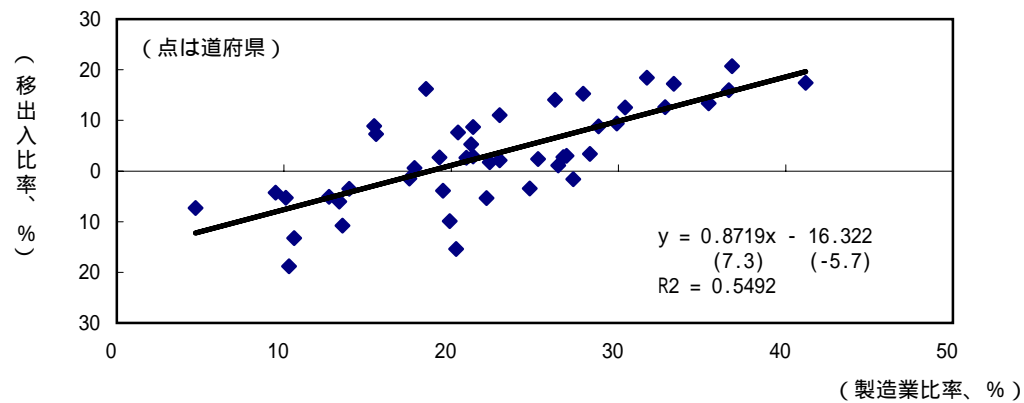
第2節 自立に至らない要因を探る

・純移出の県内総支出に対する割合(移出入比率)は製造業比率と緩やかな相関、競争力の強い産業を持っているれば、外部の需要の取り込みで、公的需要に頼らずに需要を稼ぐ原動力に

第2 - 2 - 3 図 移出入比率 (04年度)



第2 - 2 - 4 図 製造業比率と移出入比率 (東京都除く、04年度)



(備考) 内閣府「県民経済計算」により作成。

第3節 地域経済と生産性

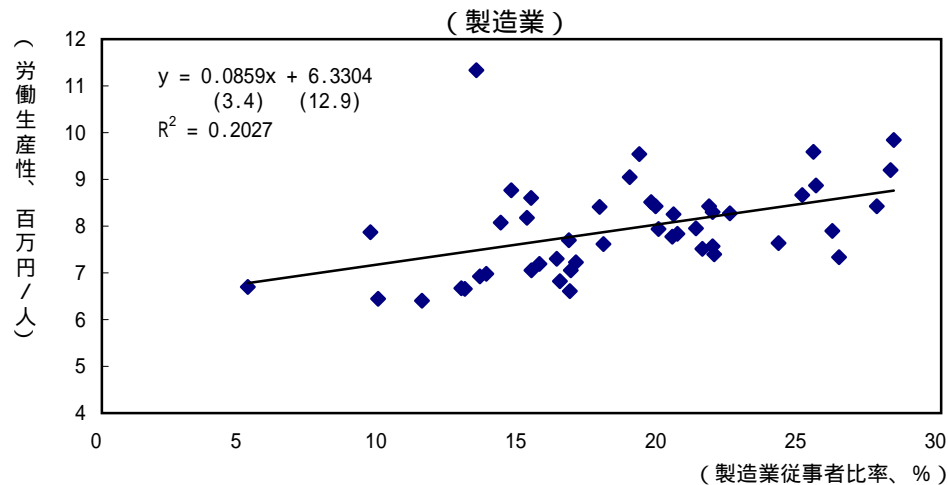
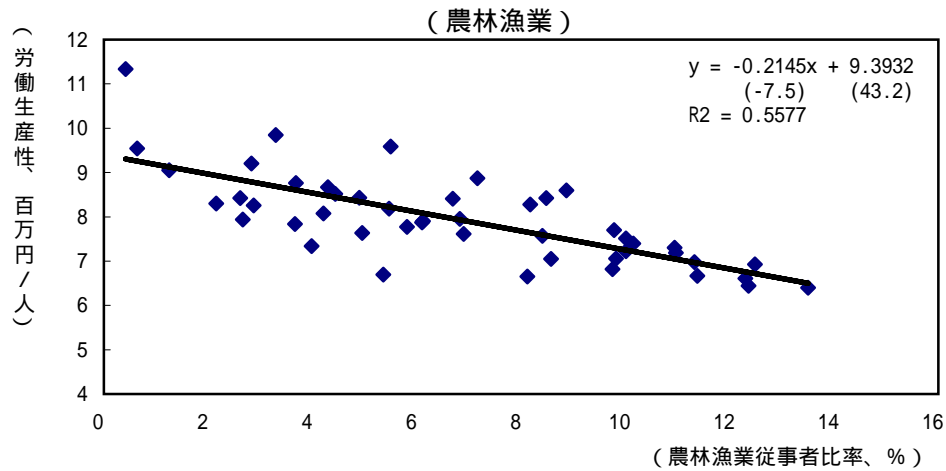
・労働生産性の差は産業構成に起因

製造業、情報通信業、運輸業、不動産業、サービス業に従事する人の割合が高いほど、労働生産性が高く、農林漁業、建設業、医療・福祉業、公務に従事する人の割合が高いほど、労働生産性が低い

・労働生産性の差は人的資本にも起因

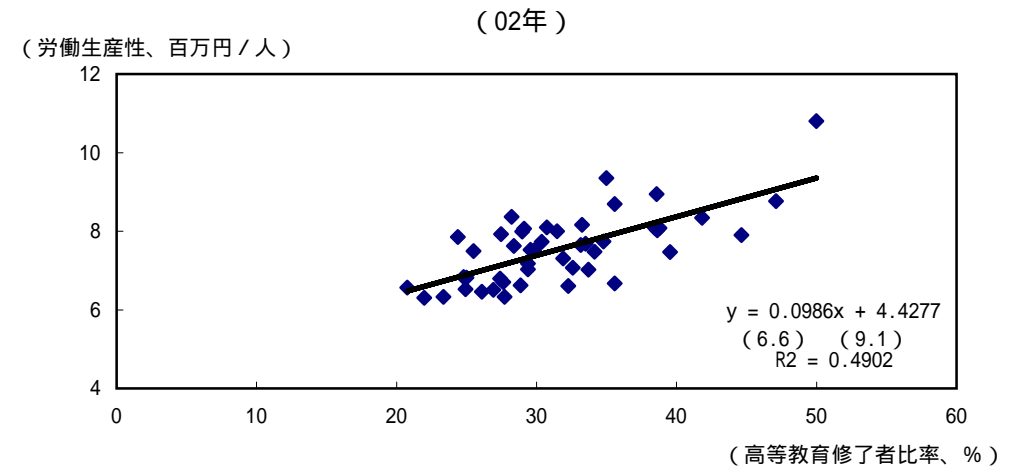
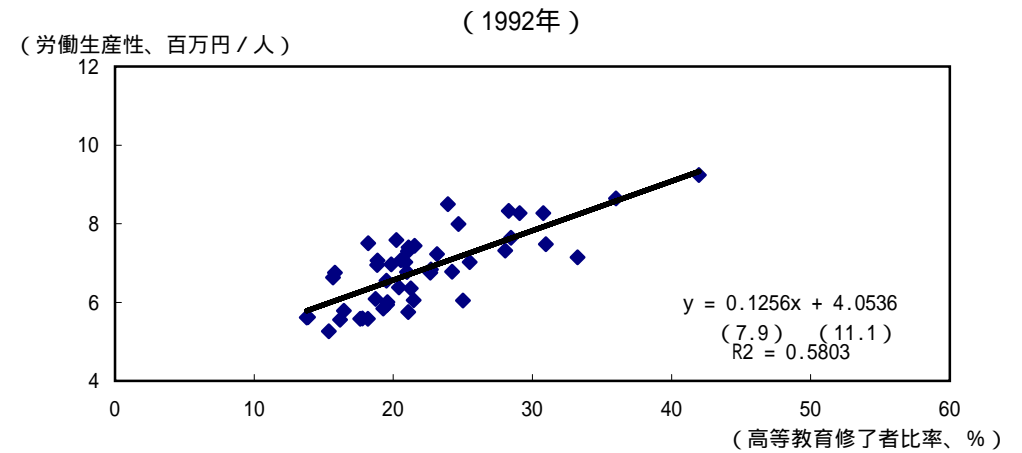
高等教育修了者比率の高い地域ほど、労働生産性が高い

第2 - 3 - 2図 産業構造と労働生産性の分析



(備考) 1. 内閣府「県民経済計算」、総務省「就業構造基本調査」により作成。
 2. 点は都道府県。

第2 - 3 - 3図 人的資本（高等教育修了者）と労働生産性



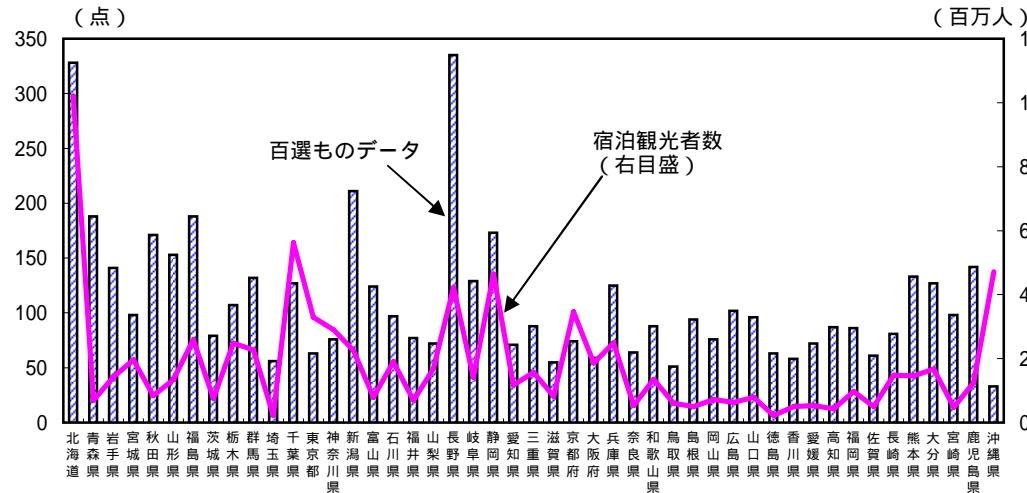
(備考) 1. 内閣府「県民経済計算」、総務省「就業構造基本調査」により作成。
 2. 点は都道府県。

第3章 - 地域経済自立に向けた活性化策

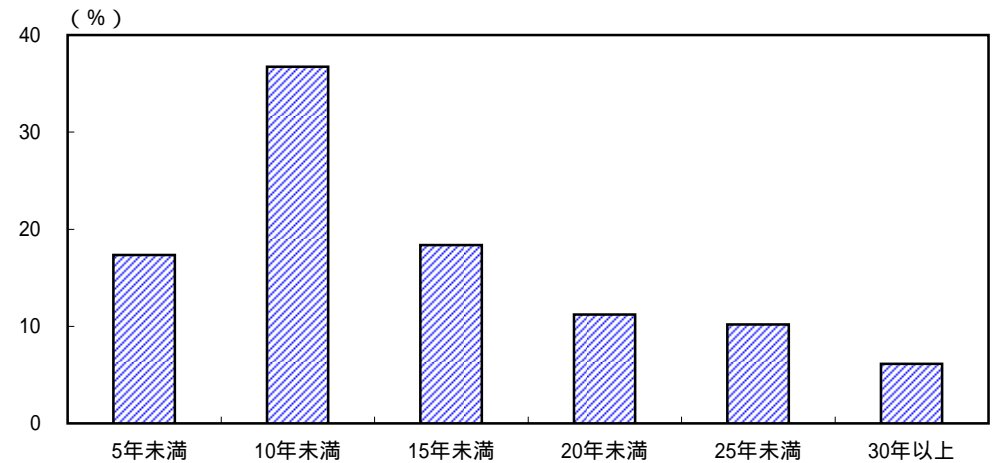
第1節 観光振興による地域活性化

- ・最近では料理、ドラマ・映画、地元出身の作家なども観光資源として注目
- ・地域の観光資源の活用が鍵となる中、資源を十分に活かしていない場合も
- ・観光カリスマの成功体験を地域の観光活性化の参考に
 観光資源の磨き上げ(例:温泉地では、個人客に焦点、旅館の外に出る仕掛け)
 観光カリスマが成功に至るには、短期ではなく、ある程度の時間を要した

第3-1-5図 百選ものデータと宿泊観光者数



第3-1-12図 観光カリスマが成功に至るまでの年数



第3-1-6表 四国観光資源の認知度・体験度

観光資源	四国外住民の認知度 (%)	四国外住民の体験度 (%)	ギャップ (-)
讃岐うどん	99.2	46.0	53.2
阿波おどり	99.1	8.3	90.8
四万十川	97.9	20.8	77.1
鳴門の渦潮	96.9	40.2	56.7
四国八十八ヶ所霊場巡り	95.9	5.2	90.7
高知「かつおのたたき」	94.7	28.5	66.2
松山城	90.7	26.4	64.3
金刀比羅宮	88.1	37.2	50.9
道後温泉	86.2	32.5	53.7
坂本龍馬像	84.6	30.1	54.5

(第3-1-5図)

1. 環境省選定の名水100選等自然資源に係る100選(18種類)、国土交通省「宿泊旅行統計調査」により作成。
2. 百選ものデータは100選資源の有無により点数化した値。複数個ある場合はその数。
 宿泊観光者数は、06年6-8月及び07年1-3月分を加算した。

(第3-1-6表)

1. 四国経済連合会「四国に観光資源の認知度・体験度並びに四国に対するイメージアンケート調査」により作成。
2. 認知度とはその観光資源を「知っている」と回答した人の割合、体験度とはその観光資源に「行ったこと(四国で食べたこと)がある」と回答した人の割合。

(第3-1-12図)

国土交通省「観光カリスマ百選」により作成。

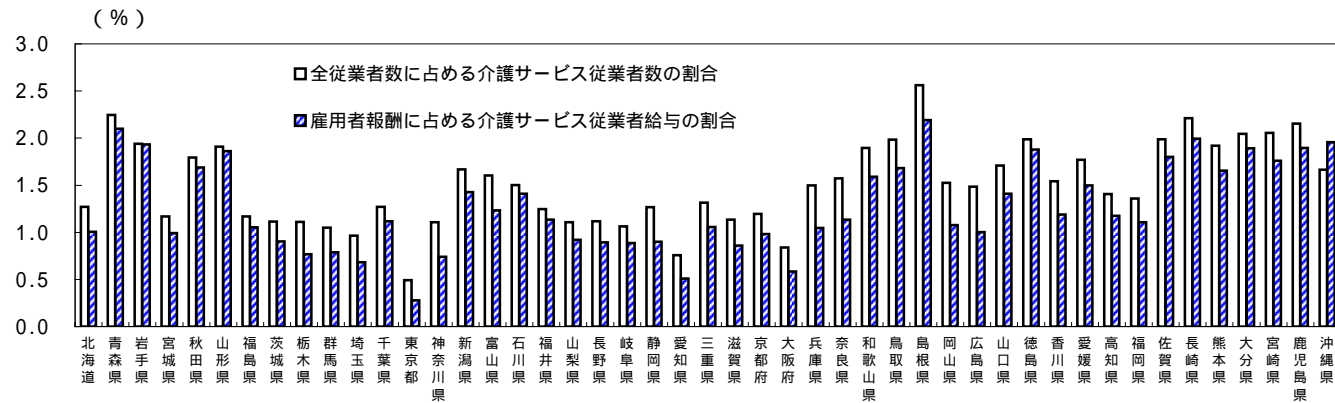
第2節 医療・福祉産業が鍵を握る地域のサービス業

- ・高齢化が進行するなか、必需的サービスである医療・福祉サービスがますます重要
- ・付加価値の高いサービスの拡大にも期待(例:健康や美容、PETガン検診ツアー)

第3節 地域を想う気持ちを形にする

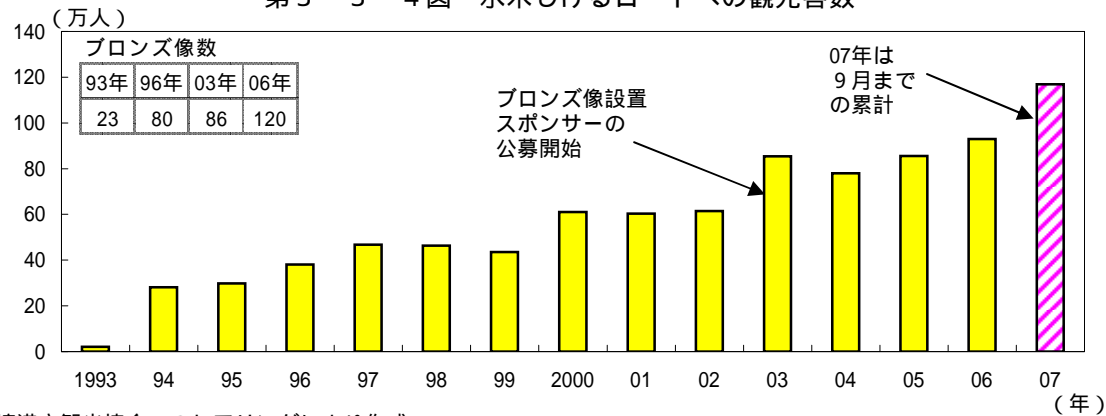
- ・地域を想う気持ちが行政を動かした事例 広島球場のたる募金
- ・上乗せ寄付金が地域経済に還元された事例 寄付金付チョコレート
- ・地域を想う気持ちを名前として残した事例 鳥取県境港市の水木しげるロード

第3 - 2 - 3 図 介護サービス業の従業者数と給与額の割合（04年）



(備考) 内閣府「県民経済計算」(04年度)、総務省「サービス業基本調査」(04年)により作成。

第3 - 3 - 4 図 水木しげるロードへの観光客数



(備考) 境港市観光協会へのヒアリングにより作成。

第4節 モノ作りと地域経済

(1) 製造業の誘致と地域経済

・自動車産業の地方への立地が進展、東北や九州への立地が目立つ。最近では北海道への進出も
 ・工場誘致の長所は、雇用の確保、税収の確保、地場の企業を育てる効果。ただし、工場には撤退リスクも(国内外の生産体制の再編や業績不振などによって、工場が閉鎖され、従業員の配置転換や解雇が発生する可能性あり)。誘致が成功するには、工場を地域に根付かせるかが鍵

(2) 元気なモノ作り中小企業と地域経済

・元気なモノ作り中小企業が出現するためには、大企業の手がけないような分野に進出するとともに、その技術を開発・深化させること
 ・地域資源を活用することに特色を出す企業も(例: 鮭皮からコラーゲンを抽出)

第3-4-6表 九州への自動車産業の新規立地と新規雇用

工場名	場所	投資額	雇用状況
車載ソフト開発機関	福岡県福岡市	不明	3年間で40人
内装部品工場	熊本県菊池市	3.5億円	18人
車体制御用ソフト開発機関	鹿児島県鹿屋市	不明	年内10人
カーエアコン工場	福岡県北九州市	105億円	3年間で600人
樹脂部品工場	佐賀県武雄市	不明	130人
内装製品工場	福岡県行橋市	10億円	100人(そのうち現地60人)
部品工場	熊本県荒尾市	1.5億円	15人
エンジン部品工場	熊本県城南町	100億円	150人
二輪車部品工場	熊本県菊池市	6億円	50人
エンジン工場	福岡県久留米市	2億円	13人
内装部品工場	福岡県飯塚市	7億円	80人
ランプ部品工場	大分県中津市	24億円	40人
組立工場	大分県中津市	400億円	年内400人
部品工場	長崎県東彼杵町	6.5億円	45人

(備考) 左図: 新聞等により作成。ここに挙げた企業は主に中小企業。

右図: 中小企業庁「元気なモノ作り中小企業300社2006年版、2007年版」等により作成。

第3-4-10表 地域資源活用事例

2006年

企業名	都道府県	内容
企業A	北海道	開拓の歴史において、農耕、炭鉱などに重要な役割をはたした馬。その馬具作りを引継ぎ、競馬用の鞍やカバンなどを手掛ける。
B	広島県	200年の筆製造の伝統技術を応用した化粧筆を開発。有名ブランドに採用されるなど世界シェア60%。

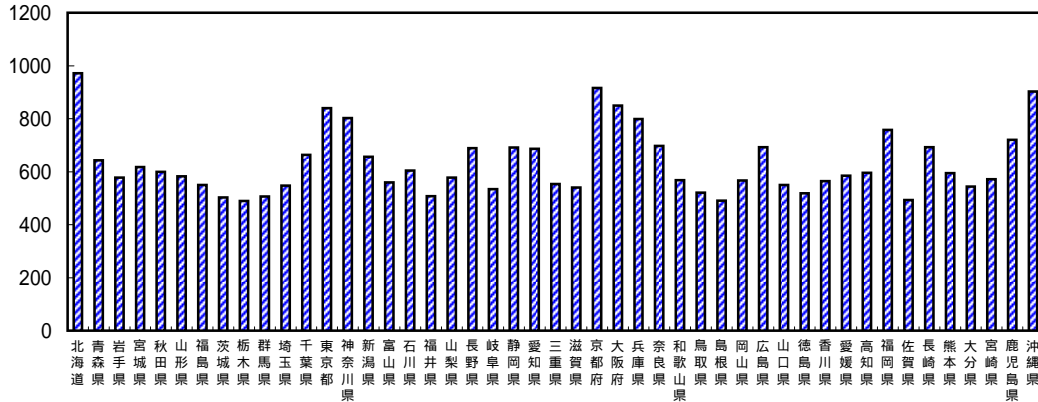
2007年

企業名	都道府県	内容
企業C	北海道	酪農家の負担軽減のため、乳牛の給餌を機械化し、酪農業の経営強化に貢献(50頭に5時間掛かっていたのを15分に)。
D	北海道	地元の素材にこだわった高品質のお菓子を開発。夕張メロンを使ったゼリーやとろきびを使ったチョコなどが有名。
E	北海道	地域資源 鮭皮 からコラーゲン(タンパク質の一種)を抽出・精製。食品、化粧品、研究試薬として付加価値をつけ販売。
F	北海道	地域に豊富に植生された針葉樹を用いた、構造用合板の製造。森林組合と植木の供給システムを確立し、地域と一体化。
G	岩手県	地元の伝統工芸品 南部鉄器 に改良を加え、錆びにくい鉄器の開発に成功。
H	山形県	日本最古の工芸品 山形鉄器 を伝承し、時代に合った商品を生み出す。
I	群馬県	群馬県産の絹を使い、絹糸を繭の状態で染色する技術を開発。これまでにない色合いの絹糸を創りだす。
J	福井県	地場産業である メガネフレーム の開発に取り組む。世界100カ国にネットワークをもち、国内最大規模の生産高。
K	京都府	京都の伝統産業 金銀糸 の製造技術を活かし、フラットパネル用や回路基盤用などに用いる高性能フィルムを製造。
L	和歌山県	県の特産物 梅 を素材とした梅果汁、梅肉エキスを製造販売。梅果汁の出荷量は80%。
M	鳥取県	千年の歴史を持つ 因州和紙 の伝統を継承し、抗菌壁紙、立体漉き和紙などの技術を確立。
N	島根県	全国的にも有名な石見地方の 石州瓦 に改良を加え、赤褐色以外の色を発現させたりなど、深みと落ち着きのある瓦を実現。
O	広島県	国内最大の筆の産地である熊野町で、800アイテム以上の化粧ブラシを製造。自社ブランドを国内外で確立。
P	愛媛県	今治伝統のタオルを活用し、環境と人間に優しいブランドを確立。1枚3,360円のタオルは厳しい安全規格をクリアし世界市場で支持。
Q	愛媛県	紙どころ四国においてメーカーニーズを的確にキャッチし、全自動巻取ロール放送機は日本一の生産量など、なくてはならない存在。
R	鹿児島県	膨大なシラス(火山灰)が堆積している県内でシラス活用の研究を重ね、緑化基盤材として工業資源化に成功。

第5節 地域経済とブランド力

・地域の総合的なブランド力は経済力と必ずしも一致していない。ブランド力自体を高めること、ブランド力を実現化することの両方が不可欠
 ・地域ブランドの登録は多い順に京都(36件)、石川県(18件)、岐阜県(12件)、兵庫県(11件)、北海道(9件)、商品・サービス別には牛が17件、温泉が13件、お茶が7件

第3-5-1図 地域ブランド知覚指数



(備考) 1. (株)日経リサーチ「2006地域ブランド戦略サーベイ」により作成。
 2. 地域ブランド知覚指数は地域のブランド価値を測る5つの評価項目(独自性、愛着度、購入意向、訪問意向、居住意向)から作成された総合指標。

第3-5-3表 都道府県別の地域ブランド数

京都府	石川県	岐阜県	兵庫県	北海道	東京都	和歌山県	鹿児島県	静岡県
36	18	12	11	9	8	8	8	7
沖縄県	神奈川県	大阪府	福岡県	山形県	愛知県	三重県	広島県	愛媛県
7	6	6	6	5	5	5	5	5
佐賀県	大分県	千葉県	新潟県	長野県	熊本県	青森県	福井県	滋賀県
5	5	4	4	4	4	3	3	3
高知県	岩手県	宮城県	秋田県	福島県	群馬県	埼玉県	山梨県	奈良県
3	2	2	2	2	2	2	2	2
島根県	岡山県	山口県	徳島県	宮崎県	茨城県	栃木県	富山県	鳥取県
2	2	2	2	2	1	1	1	1
香川県	長崎県	合計						
1	1	239						

(備考) 特許庁公表資料により作成。07年6月29日時点。

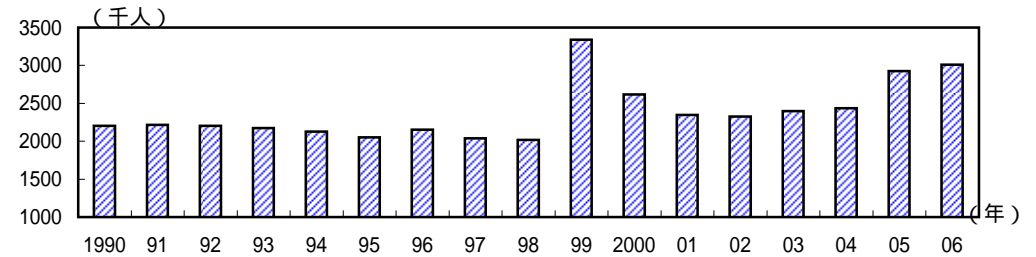
第3-5-4表 主な商品・サービス別の地域ブランド数(降順)

牛(全国計14件)			温泉(全国計13件)		
順位	都道府県名	件数	順位	都道府県名	件数
1	岩手・宮崎	2	1	石川	5
2	秋田・山形・群馬 岐阜・三重・滋賀・兵庫 島根・岡山・佐賀	1	2	福島・神奈川・長野・岐阜 滋賀・兵庫・鳥取・熊本	1

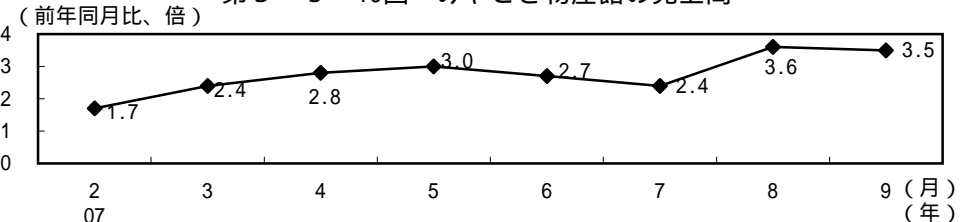
菓子(全国計7件)			茶(全国計7件)		
順位	都道府県名	件数	順位	都道府県名	件数
1	京都	4	1	静岡・鹿児島	2
2	岐阜	2	2	神奈川・三重・京都	1
3	埼玉・千葉・佐賀・長崎	1			

(備考) 特許庁公表資料により作成。07年6月29日時点。ここでは工芸品・工業製品等は除く。

第3-5-6図 尾道市入込観光客数の推移



第3-5-10図 みやざき物産館の売上高



(備考) 各々尾道市、宮崎県提供資料により作成。